

神への賛美、諸教派の声

キリスト教諸教派はそれぞれ特色のある教理を有し、それに則った典礼・礼拝の形式を保っています。そして、それに関わる音楽家たちも、長い歴史と伝統を受け継ぎつつ、時代の変化にも即応しながら作品を生み出し、神への賛美を奏でて来ました。

今回のレクチャー・コンサートでは、カトリック、ルター派プロテスタント、ロシア正教、そして英国国教会の教会・宗教的合唱曲を並べ、解説と演奏を試みます。取り上げる作品はG. マクミランの、ヴァイオリンとア・カペラ合唱のための《主よ、私たちの罪に依ることなく》、F. メンデルスゾーンのコラール・カンタータ《ただ愛する神に続べさする者は》、S. ラフマニノフ《徹夜禱》よりの抜粋、そしてR. ヴォーン・ウィリアムズ《ミサ曲 ト短調》より〈キリエ〉〈グローリア〉です。

教派の違いがどのように音楽に反映されているのか、ぜひご自身の耳でお確かめください。ご来場をお待ちしております。

日時：2026年3月1日(日)18:00～19:30 (開場17:30)

場所：立教学院諸聖徒礼拝堂 (立教大学池袋キャンパス)

講師：大島 博 (立教大学キリスト教学研究科兼任講師)

オルガン：今井 奈緒子 (東北学院大学教養教育センター教授)

ヴァイオリン：川原 千真 (古典四重奏団 第1ヴァイオリン奏者)

合唱：ジングアカデミー東京

入場無料

定員：200名 (以下のフォームからお申し込みください)

<https://forms.gle/ar3rKW7DVaxpgLsk9>

申込フォーム

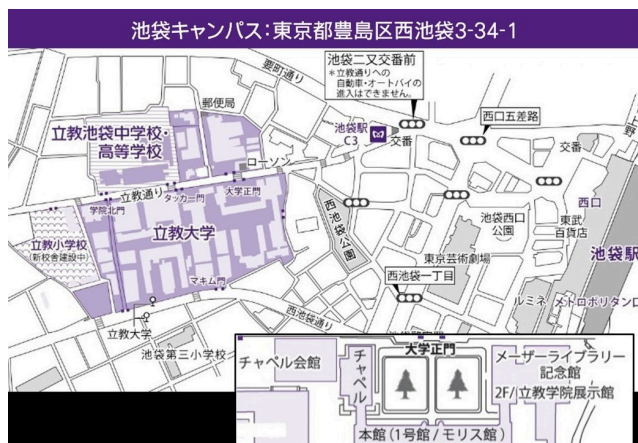
* 複数の方をまとめて予約することはできません。参加される方がそれぞれの氏名で、お一人ずつお申し込みください。

* 定員になり次第、申込受付を終了いたします。



会場へのアクセス

* 大学正門を入れて右手の建物が諸聖徒礼拝堂です。



講師・出演者プロフィール

大島 博（おおしま ひろし／指揮・テノール）

中央大学卒業後、東京藝術大学音楽学部声楽科に入学。同大学院在学中の86年、ミュンヘン音大に留学、エルンスト・ヘフリガーに学ぶ。90-91年D.フィッシャー＝ディースカウに師事。95年東京藝術大学大学院博士課程を修了。宗教曲の分野で、初期バロックから現代作品まで幅広いレパートリーを持ち、とりわけバッハの受難曲における福音史家の演奏には定評がある。また、ドイツ・リート及び日本歌曲の演奏にも積極的に取り組んでおり、96年から〈ドイツ・リートのためのしみ〉と題した、ドイツ歌曲を知るためのレクチャーを行う。2004年からはシューベルトの《冬の旅》演奏会を毎年開催している。さらに合唱指揮者、発声指導者としても幅広く活動している。近年は、ドイツ詩の翻訳も手がけ、楽譜の校訂・編集にも携わっており、原文訳詞を担当した《R.シュトラウス歌曲全集 第1巻、第2巻》、校訂を手掛けたシューベルト《冬の旅》などが全音楽譜出版社より刊行されている。立教大学大学院キリスト教学研究科兼任講師。

今井 奈緒子（いまい なおこ／オルガン）

東京藝術大学、ドイツ・フライブルグ音楽大学オルガン科卒業。オルガンを河野和雄、故秋元道雄、廣野嗣雄、ジグモント・サットマーリの各氏に師事。1985年ドイツ・ゲオルグ・ベーム国際オルガンコンクール、88年ベルギー・ブルージュ国際バッハ・コンクールに入賞。日本・ヨーロッパ各地におけるソロ活動のほか、経験豊かな通奏低音・アンサンブル奏者として共演者から信頼を得ている。ソロCDに「シャイトのアラマンダ」「バッハ：クラヴィーア練習曲集第3部」「スウェーデン7つのオルガン」等。バッハ・コレギウム・ジャパン創設時からのメンバーとして教会カンタータシリーズをはじめとする国内外での公演、CD録音に数多く参加した。現在東北学院大学教養教育センター教授、大学オルガニスト、同キリスト教文化研究所、宗教音楽研究所所員。日本キリスト教団霊南坂教会オルガン主任。（一社）日本オルガニスト協会監事、日本オルガン研究会会長。（一財）キリスト教音楽院評議員。

川原 千真（かわはら ちま／ヴァイオリン）

東京藝術大学および大学院修了。海野義雄、田中千香士、ヴィオラ・ダ・ガンバを平尾雅子に師事。読売新人演奏会出演。00、04、09、16年、バッハ無伴奏ソナタ・パルティータ全曲演奏会を開催、同CD2枚組リリース（「レコード芸術特選盤」）。「古典四重奏団」として村松賞、文化庁芸術祭大賞、同優秀賞、ENEOS音楽賞（旧モービル音楽賞）、ミュージックペンクラブ賞、「レコード芸術」誌年間レコードアカデミー大賞と文化庁芸術祭CD部門大賞のW受賞。「音楽三昧」としてアメリカ公演、「サライ大賞」CD・DVD部門賞受賞。ルクレール/ヴァイオリンソナタ全曲演奏会継続中。

ジングアカデミー東京（合唱）

大島博の呼びかけにより、19世紀ドイツで隆盛を誇った合唱音楽の研究、演奏運動に範を求め、さらに遠く「アカデメイア（快樂）」の原義に戻って「歌う快樂（Singakademie）」を追求しようと2009年に発足。各人が自立した音楽家として作品に取り組み、自由な雰囲気の中で有機的なつながりを持つ集合体として、完成度の高い音楽を作り上げることをめざしています。

これまでにH.シュッツ《マタイ受難曲》、F.リスト《十字架への道》《ミサ・コラーリス》、H.ディストラーク《クリスマスの物語》、F.マルタン《2群の4声合唱のためのミサ曲》、H.ハウエルズ《レクイエム》、J.マクミラン《ミゼレーレ》など、比較的演奏される機会の少ない作品を演奏してきました。またJ.ブラームス《ドイツ・レクイエム》、A.ドヴォルジャーク《スターバト・マーテル》のオルガン伴奏での上演により、楽曲へのより細やかなアプローチを試みています。

お問い合わせ： 立教大学教会音楽研究所 music@rikkyo.ac.jp

* 常駐スタッフがいないため、お問い合わせはメールにてお願いいたします。